

トルコの金融市場動向 Weekly Report

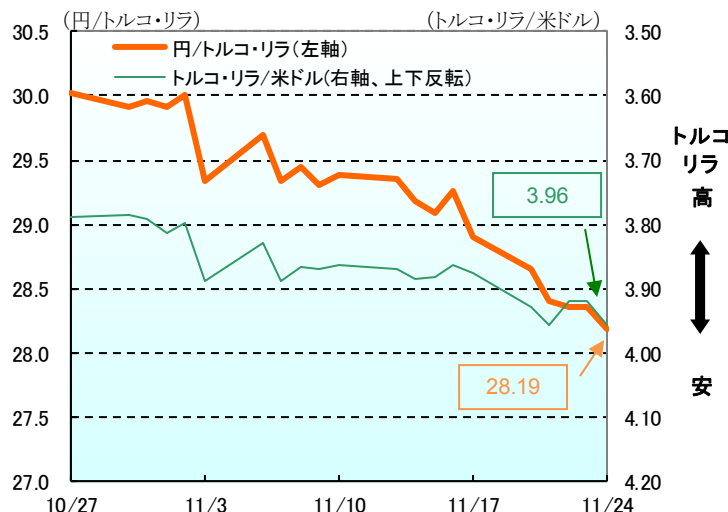
【2017年11月18日～2017年11月24日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は1週間を通して見ると対米ドル、対円では下落となりました。またトルコの2年国債金利は上昇しました。

エルドアン大統領が中央銀行を強く批判したことを受けて、中央銀行の独立性への懸念が高まり、通貨・債券共に軟調な推移となりました。このような状況下、トルコ中央銀行は後期流動性貸出金利以外の資金供給を停止することを発表しました。これは実質的に0.25%の利上げが行われたことに相当します。またトルコの政府高官が「インフレが悪化した場合、中央銀行はいつでも利上げができる」と中央銀行の独立性を尊重する発言を行いました。政府高官の発言や中央銀行の一連の対応に金融市場参加者が一定の評価を与えたとみられ、トルコ金融市場はやや落ち着きを取り戻しました。

【トルコ・リラ 為替推移】 (2017年10月27日～2017年11月24日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

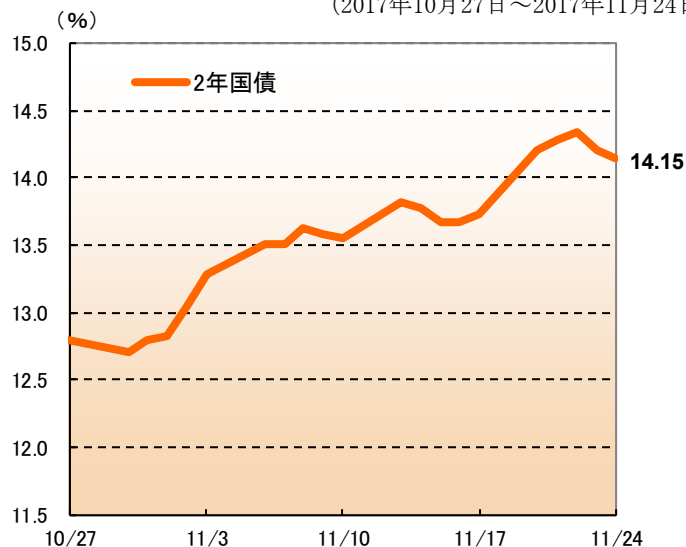
【2】今週の見通し

今週は、10月の貿易収支の発表が予定されています。足元では、トランプ米大統領がエルドアン大統領と電話会議を行い、トルコの反対を押し切って行っていた、シリアのクルド人民兵組織クルド人民防衛隊 (YPG) に対する武器供与を停止する方針で合意するなど、これまで懸念されていた米国との関係悪化懸念に後退の兆しが見えてきています。

引き続き、トルコ中央銀行の金融政策が通貨の安定に寄与するかに注目が集まりやすいと考えます。トルコ・リラは高金利通貨であることから、長期間の売り持ちは不利となります。このため、通貨の安定性が維持できれば、再びトルコへの資金流入が高まると考えます。

【トルコ 金利推移】

(2017年10月27日～2017年11月24日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>